



5月25日、八日市大凧まつり実行委員会が主催する「2008年八日市大凧まつり」が愛知川八千代橋下流河川敷で開催されました。

このまつりは、昭和59年の旧八日市市の市制施行30周年記念事業としてスタートしたのを第1回と数えると、今回で25回目です。

100畳敷大凧は、近年、3年に一度製作され、新調した大凧「共生」は、昨年夏に延べ601人で製作され、今大会が初めての飛揚となりました。

当日は、市内外から約35,000人（主催者発表）が100畳敷きの大凧の飛揚を一目見ようと訪れ、見事に大凧が飛揚されると大きな拍手と歓声が会場に響き渡りました。

この地域での大凧揚げの風習は、江戸中期に男子出生を祝って鯉のぼりと同じように揚げられたのが始まりです。この風習は、昭和33年に滋賀県の無形民俗文化財に、平成5年には国の選択無形民俗文化財にもなっています。